

日交研シリーズ A-634

平成 26 年度研究プロジェクト

「道路整備事業評価における環境影響の研究（基礎理論研究プロジェクト）」

刊行:2015 年 9 月

道路整備と環境評価

Road Project and Environment Evaluation

主査：庭田文近（城西大学現代政策学部）

NIWATA, Fumichika

要 旨

交通政策の変更・交通プロジェクトの実施にはさまざまな環境影響が伴い、したがってその合理的な評価には外部性を考慮した社会的費用便益分析が求められている。本研究では、前年度から引き続き、道路整備事業における環境影響等の外部性を考慮した社会的費用便益分析について、その方法や課題について議論してきた。

本冊子は、平成 26 年度に実施した研究プロジェクトとして、非市場財に対する顕示選好法による価値評価の 1 手法であるヘドニック・アプローチに関する議論と、平成 25 年度報告（日交研シリーズ A-611）で述べた費用便益分析における社会的割引率に関する補遺を収めている。

第 1 章「不動産価格へのヘドニック法適用の課題と対応」では、ヘドニック・アプローチ（ヘドニック・プライシング）の理論構成とその課題を確認した上で、ヘドニック価格方程式の推計と推計上の諸課題を確認する。その上で、近年の興味深い実証研究の事例を紹介した上で、現在、国土交通省でも進めている不動産価格指数の作成におけるヘドニック法とリピート・セールス法の比較を行う。さらに、特性需要関数、限界付け値関数の推計に触れる。

第 2 章「環境影響を考慮した費用便益分析における社会的割引率について」では、平成 25 年度報告書で述べた残された課題および他の課題、そして問題点についての補遺である。残された課題の一つは Weitzman の確実性等価割引率は逡減し、Gollier のそれは逡増することの証明であり、問題点は瞬間割引率と平均割引率の区別が曖昧だったことである。そこで、この 2 点について述べるとともに、二酸化炭素排出の限界的削減（増加）の社会的限界便益（費用）を様々な逡減的割引率を用いて計算した例についても述べる。

キーワード：費用便益分析 ヘドニック価格 リピート・セールス法 確実性等価割引率
炭素の社会的費用

Keywords : Cost Benefit Analysis Hedonic Pricing Repeat Sales Method

Certainty Equivalent Discount Rate Social Cost of Carbon